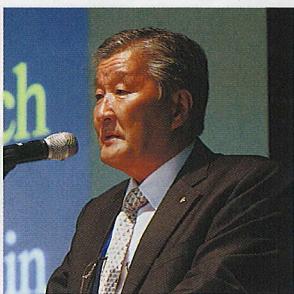


2013国際老人医療学術大会開く

老人医療を取り巻く環境の変化に伴い

地域と在宅の医療機関の連携が重要



開会式であいさつする中村哲也理事長(左)と
金徳鎮会長(右)

ジア慢性期医療協会(中村哲也理事長・板橋中央総合病院理事長)と韓国慢性期医療協会(金徳鎮「ギムトクチノ」食農・ヒヨン)病院理事長の共同主催により、「2013国際老人医療学術大会」が開

日本、韓国をはじめ、アジア諸国において高齢人口が著しく増加する今、高齢者が最期まで元気で、健康な生涯を送れることは、個人にとっても社会にとってもきわめて切実な課題となって

いる。豊かな高齢者社会を実現するために、高齢者の健康な生活をサポートする様々な動きが見られる中、6月27日(木)から29日(土)までの3日間、韓国・釜山でアジア慢性期医療協会(中村哲也理事長・板橋中央総合病院理事長)と韓国慢性期医療協会(金徳鎮会長)が開

かれた。

今回の大会では、今後の老人医療のトレンドを再確認し、これからの老人医療の方向性について議論が重ねられた。また、老人医療の現場からの声や、外国の優れた老

人医療の現場事例を話し合った。さらに、同時に催された。さらには、シルバーエキスポ、アンチエイジングエキスポとの連携でシルバー医療の意見、情報交換が行われた。全15セッション、約70名の著名人に 의해講演が行われ、日本、韓国、中国、モンゴル、アメリカ、スウェーデンの6カ国から600余名が参加した。また、モンゴルで

いる「TEGSH YE RTUNTS」NGO団体から、韓国慢性期医療協会に対し助言が求められ、これにより韓国の老人医療システムをモンゴルへ紹介する期待がもたらされた。

老人医療と福祉の先進国であるスウェーデンの老人医療福祉の研究といふセッションでは、ヨーロッパの老人医療と福祉事例が紹介された。また、日本と韓国の老人医療福連携が紹介された。また、シルバー医療の意見、情報交換が行われた。全15セッション、約70名の著名人に 의해講演が行われ、日本、韓国、中国、モンゴル、アメリカ、スウェーデンの6カ国から600余名が参加した。また、モンゴルで



2013国際老人医療学術大会のもよう



は、「老人医療は地域医療機関と在宅医療機関との連携が必要であり、近所の小さいクリニックから総合病院まで一つのネットワークを構成、連携多くの経験を有する日本の協力を仰いだ。」

シヨンについて、特に在宅リハビリテーションについては高い関心が集められた。韓国には日本の回復期病床にあたる概念がないため、回復期病床の認証評価。療養病院の認証評価。療養病院の医療環境の改善を目的として施行された韓国での療養病院に向け、認証評価制度に対する問題提起や、今後補完すべき内容について、日本慢性期病院の評価認証に照ら

り組みを進めるべきとの意見も出された。最終日には、アシア慢性期医療学会が行なわれる第3回アジア慢性期医療学会参加への呼びかけ、現場実務者同士の研究協力し合うことを確認した。また、アシア慢性期医療学会がこれまでも国際的規模で持続的に開催されることを願っている」と語った。

今回の大会は、韓国で行われているリハビリテーションは、老人医療福連携システムのあり方が重要である」と述べた。そのためには政府からの政策支援は不可欠であり、これらの制度化が先決であると解説、医療協会の金徳鎮会長

が先決であると解説、医療協会の金徳鎮会長